

決定の条件を分析する

100 XP

4 分

このユニットでは、専門家が特定のビジネス ニーズに合わせて AI サービスを選択するときに採用している条件を分析します。これらの条件を理解することは、製品間の微妙な相違点をより深く理解するのに役立ちます。

自然言語を介して人間と対話する仮想エージェントを構築するか

自然言語を使用して人間と対話する仮想エージェントを作成する必要がある場合は、Azure Bot Service を使用します。Bot Service では、ナレッジ ソース、自然言語処理、およびフォーム フォクターを統合して、さまざまなチャネル間でのやり取りを可能にします。

Bot Service ソリューションは、通常、自然言語の理解や、さらには応答を顧客の優先言語にローカライズするための翻訳などの処理を他の AI サービスに依存しています。

Bot Service を使用したカスタム チャット エクスペリエンスの構築に進む前に、一般的なシナリオを扱う、事前構築済みのノーコード ソリューションを探すことをお勧めします。たとえば、Azure Marketplace から入手できる QnA Maker を使用すると、使いやすい UI を使用して、または REST API を介して、FAQ ページ、サポート Web サイト、製品マニュアル、SharePoint ドキュメント、または編集コンテンツを使用する洗練されたボットをビルドし、トレーニングして公開することができます。

同様に、Power Virtual Agents を Microsoft Power Platform と統合すると、事前構築済みの数百のコネクタをデータ入力に使用できます。Power Automate でカスタム ワークフローを構築することによって、Power Virtual Agents を拡張でき、既定のエクスペリエンスには制約が多いと感じる場合でも、Microsoft Bot Framework でより複雑な対話処理を構築できます。

画像、ビデオ、音声のコンテンツや意味を理解できる、またはテキストを別の言語に翻訳できるサービスが必要か

音声テキスト変換の実行、検索との統合、画像内の物体の識別などの汎用タスクに関しては、Azure Cognitive Services を使用します。Azure Cognitive Services は "汎用的" です。つまり、多数のさまざまなお客様が、これらのモデルをトレーニングおよびテストして、低コストで大規模に提供するために Microsoft が既に行ってきた作業によるメリットを得ることができます。

アプリで、ユーザーの行動を予測したり、パーソナライズされた推奨事項をユーザーに提供したりする必要があるか

Azure Cognitive Services の Personalizer サービスでは、アプリケーション内のユーザーのアクションを監視します。Personalizer では、使用パターンを識別し、ユーザーの動作を予測して、関連性のあるエクスペリエンスを提供します。ここでもまた、ユーザーの動作をキャプチャして保存し、独自のカスタム Azure Machine Learning ソリューションを作成してこれらの処理を行えますが、この方法には多くの労力と費用が必要になります。

プライベートの履歴データに基づいて将来の結果をアプリに予測させるか

データを分析して将来の結果を予測する必要がある場合は、Azure Machine Learning を選択します。たとえば、会社の顧客向けに新しい製品やサービスを作成し、それらの新しいサービスを日常の電話によるカスタマー サービスで提供するのに役立つ新しいパターンを見つけ出すために、数年分の金融取引を分析する必要があるとします。専有データを使用している場合は、より適切に調整されたカスタムの機械学習モデルを構築することが必要になる可能性があります。

独自のデータを使用してモデルを構築したり、上記のものとは異なるタスクを実行したりする必要があるか

最大限の柔軟性が必要な場合は、Azure Machine Learning を使用します。データ科学者や AI エンジニアは、使い慣れたツールやお客様が提供するデータを使用して、特定の要件に合わせて調整されたディープ ラーニング モデルや機械学習モデルを開発できます。